

千葉県がんセンター 腹くう鏡手術で多くの問題か

NHK 3月26日 12時04分



k10010028261_201503261252_201503261253.mp4

千葉県がんセンターで腹くう鏡を使った手術を受けた患者が相次いで死亡した問題を調査してきた日本外科学会が、調査対象となった患者11人のうち多くのケースで、手術方法の選択などに問題があったと指摘していることが分かりました。

千葉市中央区にある千葉県がんセンターで、7年前から去年2月までに、腹くう鏡を使ってすい臓がんや胆のうなどを取り除く手術を受けた患者11人が手術の当日から9か月後の間に相次いで死亡しました。これを受けて千葉県は、医師や弁護士など第三者による検証委員会を設置して調査を進めていました。

検証委員会がまとめた報告書案によりますと、手術の妥当性について調査してきた日本外科学会が、多くのケースで、手術方法の選択などに問題があったと指摘していることが分かりました。11人のうち8人については同じ男性医師が担当し、平成25年1月に行われた74歳の男性の手術について、「本来必要のない静脈の切除が行われたことなどが死亡につながった。難しい手術にも関わらず腹くう鏡を使って行うという判断に問題があった」と指摘しています。

また、平成24年9月に行われた76歳の女性の手術については、「出血した際に、腹くう鏡を使った止血にこだわり、適切な対応が遅れた」と指摘しています。報告書案では難度の高い腹くう鏡を使った手術にもかかわらず、医療事故を防ぐために設けられた病院内の倫理審査委員会に事前に諮られていなかったことや、患者への説明も、新しい手術なのか一般的な手術なのか伝えておらず、不十分だったと指摘していま

す。

そして、患者が死亡するケースが相次いでいたにもかかわらず再発防止に向けた対策が検討されず、死亡事例が続くことになったと指摘しています。

現場の医師「倫理審査ルーズだった」

この問題で、日本外科学会は医学的な調査を行いました。その結果、手術方法の選択などで複数のケースに問題のあることが分かったということです。

また、死亡した11例のうち少なくとも7例は保険適用外の手術と考えられましたが倫理委員会の承認は得ていませんでした。

これについて、現場の医師は学会の聞き取りに「千葉県がんセンターは大学に比べると倫理審査などにはルーズだったと感じていた。当時、倫理委員会に諮るという決まりは認識していなかった」などと話したということです。

学会では千葉県がんセンターが実施した保険適用外の術式については開腹手術と同様の安全性は担保されていなかったとしていて、高難易度の腹くう鏡の手術についてはまず部内で議論し、腹くう鏡を使うべきか厳正に決定する体制を作るべきだとしています。